



学校だより 青い鳥

平成30年度5月号
さいたま市立上落合小学校
平成30年5月1日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381
http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/ E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



成長

校長 藤澤 太郎

新学期がスタートして一ヶ月経ちました。子どもたちが学校や環境に適応する力は大したもの、クラスや班にすっかり溶け込んでいるようです。朝と休み時間は、飛び切りの歓声が校庭や校舎に響きます。(大人の)中にはその力に元気をもらい、一瞬、若返ったような気分になる人も少なくないようです。この後、連休の後半がありますから、5月の本体(5年生自然の教室や運動会練習も含め)に向けて、心と体の調子を整えてほしいと願っています。

さて、今月は人(ヒト)の成長について考えてみたいと思います。教育の世界では、昔から知・徳・体について取り上げ、これらの成長(伸び)について基準となる考え方を持ってきました。また、広く人間の成長といった時には、人間的(精神的)な成長を意味するところだと思っています。最近では、このことについての考え方がだんだん曖昧になってきて、「神(対応)」だとか「付度」だとかのトレンドに流されてしまう向きもあるようですが、成長ということについては、「心と体とトータルな資質」と考えたいところです。つまり、心と体のバランスもあるでしょうし、一人の人間としてどんな風に前進したか?というところが大切なのだと思います。

このような見方で子どもの成長をよく見てみると、まったく一人ひとりが異なった成長の仕方をするということが分かります。よく、「〇年生になると〇〇に対しての興味を持つようになり、」などのご案内を見かけますが、それは全体の傾向であって、個人にはなかなか当てはまらないように思います。また、「心と体とトータルな資質」について、もっと動きのある見方をすると、子どもの成長について：○ すぐに分かるもの ○ あとから分かるもの や ○ 経験を通して(自身で)分かるもの ○ まわりが認めるもの ○ 今はわからないもの などに分類することができます。

こうした見方や考え方の中で特に大切にしたいのは、保護者や先生が考えたプログラムによって得られる成長もあるでしょうけれど、保護者や先生が子どもと一緒に考えてたり、迷ったり、時には失敗をしながら得た成長が本当に価値のあるもののように思います。子どもはそのことを大人になってもよく覚えていますし、自慢の種として直ぐに取り出せる状態にしているようです。さらに別の見方では、子どもも親も先生も一緒になって成長しているのではないか?ということ。考えてみれば、先生と子ども(家庭)との出会いは、言わば一期一会ですから、その時その時代で対応の仕方も違えば、辿っていく道もそれぞれということなのでしょう。

今回も結論の出ない話となりました。一つ言えることは、特に子どもが成長したかどうかの判断基準は常に未来にあるということです。それが少し先なのか遠い先なのかは資質により、というところでしょうか。例をもっともっと具体的な話を展開したいところですが、それはまた別の機会にしたいと思います。今年学習指導要領が改訂され、完全実施を待つ年となります。学校として、より良い上落合小学校にしようと精進する覚悟であります。よろしく願いいたします。

ところで成長ということについて、ご兄弟であれば、下の子どもはちゃっかりしている部分がよく育つようです。親の表情もよく見ていますし、物事の成り行きと対応についてしっかりとした勘所をもっているようです。これも成長したことなのでしょう。さて、さて、今月も頑張っていきましょう!

学校教育目標

あかるく なかよく たくましく